

第1回懇談会における委員意見と道路整備の方向性の結びつき

平成14年7月12日

福 島 県

各委員意見	道路整備の方向性への反映（本文中のアンダーライン）
「道路整備の基本的な考え方」	
<p>高齢化が顕著であるため、今後は、維持管理を重視して道路行政を展開すべきである</p>	<p>建設主体から管理重視へ</p> <p>既存の社会資本ストックを重点的かつ適切に維持管理し、長期にわたって有効活用を図ることを提案。</p>
<p>道路は地域社会を豊かにする、活気を持たせることにおいて大変重要なツールであるが、現実にはバイパスを造ってみたら中心市街地が空洞化したなどの現実がある。交通渋滞緩和のためのバイパス整備に対して、それ以外の目的が期待されて様々な開発行為が及んでいくこととなり、中心市街地における活力がそぎ落とされていくことが現象としてみられる。道路と地域社会のあり方をもう一度再考する必要がある。</p>	<p>地域社会との調和</p> <p>道路の整備は、地域社会の形成に多大な影響を及ぼすことから、その整備にあたっては、沿道利用のあり方を考えたうえで行うなど、地域社会（地域計画）を踏まえた道路の整備に努めることを提案。</p>
<p>郊外に大型店舗ができ、中心市街地が空洞化している。いわゆる街の真ん中で生活しているにもかかわらず、車を所有していなければ何もできない状況となっている。なるべく車に頼らずに生活できる環境を整備すべきである。</p> <p>道路そのもののネットワークと同時に、軌道系など他の交通機関との連携を考える必要がある。</p>	<p>公共交通機関との連携</p> <p>自動車への依存度が高い本県においては、地球環境の保全という観点からも、自動車の利用から鉄道やバス等の公共交通機関へ転換するために、これら公共交通機関と連携を図った道路の整備に努めることを提案。</p>
<p>道路整備の方針、道路建設あるいは維持管理も含めて県民の意見をいかに受け止め、反映させていくか、そのような仕組みづくりが重要である。</p> <p>道づくりに関しては、県民、市民の声をよく聞き、ともにつくるといった観点から行政を行うべきである。</p>	<p>道路整備にあたってのしくみづくり</p> <p>道路利用者や地域住民の視点に立ったきめ細やかな道路サービスを提供するため、事業の計画から施工、維持管理に至る各段階において、ともに考え、ともにつくるといった観点から、情報公開やPI手法を活用し、県民が積極的に参加できるような仕組みづくりに努めると提案。</p>

各委員意見	道路整備の方向性への反映（本文中のアンダーライン）
<p>道路の整備、管理にあたっては、現在の縦割り行政の中で行うのではなくて、道路を实际使う利用者の立場に立って横断的に行うべきである。</p> <p>道路によって管理者が違いため、例えば除雪の際に、他の管理者の道路を走行するにもかかわらず除雪しないなど、無駄が多いように思われる。</p> <p>あらゆる場所に同水準の道路をつくるのではなく、それぞれの道路が担う役割を明確にしたうえで、道路づくりを図らなければならない。</p>	<p>総合的な道路行政による展開</p> <p>道路の整備・管理にあたっては、道路利用者や地域住民の視点に立ち、国道、県道、市町村道などが担う役割を明確にし、異なる道路管理者間の情報を一元化するとともに、総合的な取り組みを行う必要があることを提案。</p>
<p>基本方針 広域的な連携・交流を促すふくしまの道づくり</p>	
<p>福島県の場合は、どこかに一極集中するのではなく、七つの生活圏それぞれの生活が成り立つように、生活圏の連携を大切にすることが必要である。</p>	<p>本県は、県内各地に都市が分散した特色ある多極分散型の県土構造となっており、その中で都市と農山村が機能分担と連携によって七つの特色ある生活圏をかたちづけているため、これら七つの生活圏相互の連携を強化し、県全体としての魅力を高めていくことが重要であると記載。</p>
<p>南会津は素晴らしい観光資源があり、首都圏の方々に認識もいただいているにもかかわらず、その資源を活かす道路が不足している。栃木西部・会津南道路などの計画を実現していただきたい。</p> <p>下郷町湯野上地内の国道118号は迂回路がないため、冬期間の積雪等で大変苦労することから、これと並行する路線の整備が必要である。</p> <p>矢祭町、塙町、棚倉町など東白川地方には、高速で走れる道路を整備していただきたい。</p>	<p>本県の均衡ある発展のためには、高速道路等の空白地帯である相双地方、東白川地方、南会津地方において、高規格幹線道路や地域高規格道路の整備を図り、広域的な連携・交流を促進することを提案。</p>
<p>福島県は、非常に広大な県であるため、地域間の連携を高めることは必要であり、地域連携軸を確保する道路の整備は非常に重要である。</p>	<p>七つの生活圏や県際地域相互の連携・交流を促進するため、隣接各県との調整を図りながら、三本の縦軸と三本の横軸の合計六本の連携軸を、高規格幹線道路や地域高規格道路、一般国道等の整備により強化を図り、広域的な連携・交流を促進することを提案。</p>

各委員意見	道路整備の方向性への反映（本文中のアンダーライン）
基本方針 地域連携・地域生活を支えるふくしまの道づくり	
<p>救急業務は時間との戦いで、時間によって人の生命が左右される。救急業務における交通の手段としては、自動車しかないため、人の生命の大部分は道路に依存している。</p> <p>会津の奥地は冬期間の凍結のため、医療機関への搬送時間がかかることから、人口が少ない、交通量が少ないだけで道路はいらぬという判断は納得できない。</p>	<p>高次救急医療施設のサービス圏の拡大、冬期におけるサービス圏の安定的確保を図るためにも地域生活を支える幹線道路網や地域道路網の整備を推進することを提案。</p>
<p>南会津にある観光施設までの道路が整備されていないため、渋滞が発生するなど、リピーターを確保するためにも道路の整備が必要である。</p>	<p>広域的な地域整備の計画や各種プロジェクト等を支援するとともに、地域づくりのための広域観光拠点を連携し、リピーターの確保を図るうえでも、地域道路網の整備を推進することを提案。</p>
<p>生活を支えるのための道路の充実を図る必要がある。</p>	<p>県民に対する意識調査の結果、全ての生活圏で日常生活に欠かせない道路の整備を望む声が高く、さらに、道幅が狭いなど道路の安全性に対する不満も多い状況となっているため、生活に密着した地域生活を支える道路網の整備を推進することを提案。</p>
基本方針 安全で安心な暮らしを支えるふくしまの道づくり	
<p>車と自転車と歩行者が混在し、大変危険な状況が見受けられるため、歩道の整備は積極的に図るべきである。</p>	<p>依然として交通事故の発生件数が増加していることから、緊急性の高い通学路を中心に安全・安心に配慮した歩道の整備を推進することを提案。</p>
基本方針 都市の活動を支えるふくしまの道づくり	
<p>福島県は、車に依存しなければならないため、道路が必要だと言うことはわかるが、3ナンバーの車に一人で乗って通勤しているなど、過大な交通需要に繋がっていることから車の使い方なども少し考えるべきである。</p> <p>道路の掘り起こしについては、時期的に合わせるなど効率的に実施していただきたい。年度末に集中するのも問題である。</p>	<p>厳しい財政状況の中で、効率的・効果的に渋滞の緩和、解消を図るため、交通需要の調整、抑制策である交通需要マネジメント（TDM）や路上工事を調整するなどソフト対策を積極的に推進することを提案。</p>

各委員意見	道路整備の方向性への反映（本文中のアンダーライン）
<p>各生活圏の中においては、ある程度の生活要求が満たせるような施設、機能などのサービスを用意し、その中での道路交通のトリップについては、移動距離を短くする、安全安心のためメリハリのきいた仕組みなどを用意していく必要がある。つまり、生活圏の中では、それぞれの都市をコンパクトにして、その中で交通行政のあり方や生活の利便の提供を図ることが重要である。</p>	<p>都市の利便性を高めながら、効率的な都市活動を実現するため、コンパクトで環境負荷が小さく、身近な生活環境を重視するまちづくりに配慮した道路の整備を推進することを提案。</p>
<p>基本方針 自然環境や景観と調和したふくしまの道づくり</p>	
<p>周辺の景観と調和した道路の整備を図る必要がある。</p>	<p>「福島県公共事業等景観形成指針」に基づき、道路の整備にあたっては、従来の機能性、安全性、経済性等に配慮することはもとより、地域の個性を生かしながら持続性、公共性、環境性を備え、周辺景観に配慮し洗練された社会資本の整備に努めることを提案。</p>
<p>電柱を地中化し、誰でも安心して通れるような道路をつくっていただきたい。</p>	<p>都市部においては、電線類の地中化により、都市景観に配慮した道路整備を推進することを提案。</p>